



街頭にて県政推進と自民党の政策を力強く訴える



県政発展に向け、固い握手



ひばの隊長・佐藤まさひさ参議院議員と国防を語る会



総務省消防庁久保長官表敬訪問



がん対策ヒアリング会にて進行役をつとめる

新規事業による水耕栽培トマトの視察(南砺市)

総務省にて西川政策企画官と中小零細企業向けクラウドサービスについて打ち合わせ

東京都墨田区本所防災館を視察

燃料用木質パワターの製造工場視察(和歌山県森林組合連合会御坊事務所)

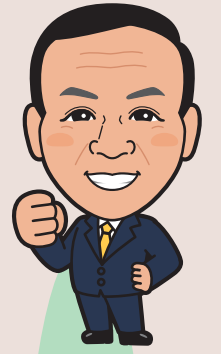
### いそごひ

皆様には、口頭からあたたかいかいご理解とご指導をいただき心から感謝申し上げます。

さて、先日の富山県知事選挙を経て石井県政の3期目がスタートしました。本県においては、石井知事のリーダーシップのもと、確実な財政再建が図られるとともに、東海北陸自動車道の整備、伏木富山港の総合拠点港の選定、台湾便の新規就航など富山空港の国際路線の充実、そして平成26年度末の北陸新幹線の開通に向けた準備など、未来に向けた「陸海空」の基盤整備が大きく進んでまいりました。この事により、首都圏とのビジネス交流や観光客の誘致、アジア諸国や世界に対するビジネスや物流拠点としてますます発展してゆくための可能性が、いよいよ現実のものとなって来ました。これらを絶好のチャンスと捉え、アジア諸国や首都圏の成長を富山に取り込むための準備が出来たのです。しかし一方では、超高齢化少子化社会の到来による時代にあつた社会資本整備、県民の大切な公共交通手段である平行在来線の利用促進、地域医療と福祉の充実、防災・防犯の推進、未来を担う青少年の健全育成、豊かな自然環境の保護、心が通い合う地域社会の構築、小水力発電など本県の特長を生かした再生可能エネルギーの利用促進、医薬品製造分野をはじめとする製造業の振興、企業誘致や技術革新による雇用の確保、農林水産業の振興など、引き続き取り組むべき課題も山積しております。

今後とも、これらの課題に対してしっかりと取り組むとともに、皆さんの声をお聞きし、真摯に議員活動にまい進してまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。

富山県議会議員 藤井裕久 拝



とうほんせいそう  
**東奔西走**

### イタイイタイ病資料館 歴史に学び未来へ繋ぐ

本年4月29日に、イタイイタイ病の被害者と原告団の壮絶な闘い・圃場復元の歴史を風化させることなく後世に伝えるため、また公害病が二度と繰り返されることのないよう、青少年や世界の人々に向けた「公害病根絶」「環境教育」「命の教育」の発信地になることをめざして、県立イタイイタイ病資料館が富山市友杉(とやま健康パーク内)にオープンした。ここに、裁判一審判決文の抜粋がある。「河川は古来 交通・かんがいはもちろん 飲料その他生活に欠くことのできない自然の恵みのひとつであつてわれわれは何の疑いも無くこの恵みにすがって生きてきた。神通川ももとよりその例外ではない」真に深い判決文であり、未来を担う子どもたちはこの歴史を引き継いでゆく大人の責任を痛感した。

### 未来に響け、 宮野小学校清流太鼓!



イタイイタイ病の歴史を踏まえ、よみがえった神通川の清流と自然の大切さ、平穏な暮らしを勝ち取った人々の思いや故郷を愛する心を未来に伝えてゆかために、宮野小学校創立50周年を機に「宮野小学校清流太鼓」が発足した。小学校5年生・6年生を中心とした数十名のユニットが奏でる楽曲は、鬼気迫る迫力がある。子どもたちの真剣なまなざしと躍動するばさばさ。その鼓動は聞く者の体に響き渡り、心に染み渡る。実行委員会や自治会をはじめとする地元の方々や学校関係者のご努力により、「子どもたちが主役となり新しい歴史が始まった瞬間」である。この新しい伝統が未来に向けた希望となることを確信するとともに、涙があふれるほどの感動であつた!

### 県議会における所属委員会・部会・議員連盟・調査会等

#### 「県議会委員会」

- 教育警務常任委員会 副委員長
- 予算特別委員会 委員
- 景気・雇用・金融対策特別委員会 委員
- 決算特別委員会 委員

#### 「部会・自民党」

- 福祉環境部会 副部長

#### 「自民党調査会」

- 消防調査会
- 雇用問題調査会
- 医療問題調査会
- 農業問題調査会
- 薬業問題調査会
- 都市問題調査会
- 私学教育調査会
- 並行在来線等問題調査会
- がん対策推進条例検討プロジェクトチーム 副事務局長

#### 「議員連盟・超党派」

- 日中友好議員連盟
- 日韓友好議員連盟
- スポーツ振興議員連盟
- 山村振興議員連盟
- 砂防促進議員連盟
- 観光振興議員連盟
- 日台友好議員連盟
- 南米協会

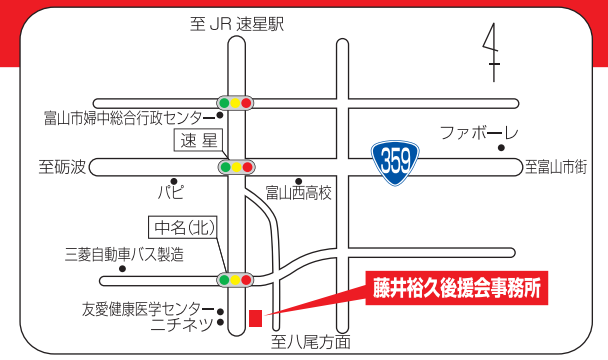
- 水産問題調査会
- 危機管理防災調査会

### 事務所を移転しました。

#### 藤井裕久後援会事務所

新住所 〒939-2741 富山市婦中町中名1606-1  
TEL 076-465-7070 FAX 076-465-7071  
ホームページ <http://hirohisa.nakama.to>

県政に対するご意見・ご要望をお聞かせください。  
お近くにおいでの際はお気軽にお立ち寄りください。  
E-mail [fujii@hirohisa.nakama.to](mailto:fujii@hirohisa.nakama.to)



自民党県議会 政務調査活動報告

富山県アンテナショップ「いきいき富山館」視察

今後の富山県物産振興のため、同ショップの営業状況、品揃えやお客様の様子、売れ筋商品や祭事の予定、現状での問題点などを視察しました。

ローヌアルプ州企業開発国際局東京事務所(erai Japan)打合せ

本県繊維産業の更なる発展のため、高度な技術を有し繊維産業が盛んであるローヌアルプ州で開催される「国際繊維シンポジウム」への県内企業の参加を促進するため訪問しました。



アンテナショップ全景



モリエ代表・沢田マネージャー・スタッフと

自民党福祉環境部会 政務調査活動報告

社団法人 宮城県看護協会

同協会が運営する、宮城認定看護師スクール(認定看護分野:皮膚・排泄ケア)の開設経緯や運営について視察調査しました。富山でのスクール開設を目指します。

岩手医科大学付属病院高度看護研修センター

本年度から開設し同センターが運営する、認定看護師教育課程(認定看護分野:緩和ケア)の開設準備について視察調査しました。

盛岡市先人記念館

現代の盛岡に生きる人々や青少年たちが、故人の遺徳をしのび、先人の偉大な人間形成の過程や郷土の豊かな精神文化を学び、郷土愛を育むための施設としての工夫や効果について視察しました。

弘前大学医学部付属病院高度救命救急センター

先端の高度救命救急センターの新しい設備やスタッフの配置状況、救急医療の現状、人材育成や医療県内の病院との連携などを視察した。あわせて、緊急被爆医療への取り組み、ダヴィンチ手術についても視察しました。本県医療の推進につなげます。



岩手医科大学付属病院にて



緊急着陸用ヘリポートにて

富山県議会砂防事業促進議員連盟

「世界遺産フォーラム視察および国陳情」

「世界に誇る富山の文化遺産」と題した本年世界遺産フォーラムに参加し、世界遺産登録に向け、砂防事業の歴史的・文化的価値を再認識し、併せて今後の砂防事業の必要性や問題点について正しい知識を共有する目的の場として参加しました。

国土交通省 水管理・国土保全局

富山県における「砂防事業」について、現状の問題点等を踏まえ今後の事業の円滑化を図るために重要要望事項を説明し陳情しました。



富山県議会教育警務常任委員会 政務調査活動報告

視察先: 熊本城(歴史的建造物保存) 鹿兒島県高等特別支援学校(職業教育)  
 熊本大学五高記念館(歴史展示) 知覧特攻平和会館(歴史展示)  
 鹿兒島県警察警察機動センター(警察犬訓練)

富山県における命の教育・ふるさと教育・障害者教育の充実をはかるとともに、警察機能の強化に努めます。



鹿兒島県警察機動センター

3期目に入った石井県政。県民の幸せのため、力を合わせて頑張ります!!

新総合計画 「新・元気とやま創造計画」の概要



5つの重点戦略

- ★グローバル競争を勝ち抜く環日本海・アジア戦略 (ものづくり産業の高度化、海外ビジネスの展開の促進 など)
- ★少子高齢化・人口減少社会における活力創造戦略 (高齢者、女性が活躍できる環境づくり など)
- ★災害に強い「日本一の安全・安心県」戦略 (防災・減災のための体制づくり、災害に強い県土づくり など)
- ★環日本海地域の「環境・エネルギー先端県」戦略 (循環型・低炭素型社会づくりの推進 など)
- ★いつまでも、みんな元気「健康先進県」創造戦略 (いつまでも元気に自立して暮らすための健康づくりの推進 など)

2020年代初頭に期待される富山県の姿

「活力」あふれる県

- ものづくり産業や医薬品産業が力強く本県経済を牽引しているとともに、次世代自動車や航空機など新しい時代を担う新たな産業や成長性の高い産業が次々と生まれています
- 環日本海・アジア地域の拠点として、北陸新幹線、東海北陸自動車道、富山空港や伏木富山港を利用した観光、国内外との物流、海外ビジネス展開が活発に行われています



富岩水上ライン

「未来」への希望に満ちた県

- 仕事と子育てが両立できる職場づくりが進むなど、子どもを生き、育てやすい環境が整備され、良好な環境のもとで子どもや若者が健やかに成長しています
- シニア世代が知識、経験、技能を発揮し、企業や地域等で活躍するとともに、男女がともに個性と能力を十分に発揮できる機会が確保され、女性の社会参加が進んでいます



とやま科学オリンピック



とやま世界子ども舞台芸術祭

「安心」して暮らせる県

- 共生型福祉拠点である「富山型デイサービス」がさらに広がりを見せているなど、誰もが自立し、互いを尊重して共に支え合う共生社会が形成されています
- 火災や自然災害などへの十分な備えが整えられているとともに、犯罪や交通事故等の少ない安全なまちづくりが地域ぐるみで行われるなど、県民の安全・安心な暮らしが確保されています



富山型デイサービス



農業用水を利用した小水力発電所

活力、未来、安心のふるさと  
 人がみんな  
 輝く高志の国  
 で創ろう!!

平成24年2月 富山県議会予算特別委員会質問

問1 イタイイタイ病と県立資料館等について

(1) イタイイタイ病(以下イ病)発生から今日に至るまで、関係各位の長い闘いの歴史があった。私たちに、その経験と歴史を、未来を担う子どもたちや、全人類に発信してゆかなければならない「使命」がある。

知事 イ病の恐ろしさを知り、克服の歴史を学び、県民一人ひとりが健康を大切にすることを、ライフスタイルの確立や地域づくりに取り組みすることを目指す「未来志向型の資料館にしたい。また、5か国語対応のホームページや展示音声ガイドをとおして広く世界に発信してゆく。

(2) ふるさとを愛する心、自然や命を大切にすることを育むためにも、富山県教育の題材として、未来を担う子どもたちにも学ばせるべきである。そこで、イ病を風化させないため、ふるさと教育、環境教育、あるいは命の教育の環として、イ病について小・中学校の「教材」として必修化する考えはないか。問う。



本年4月29日にオープンした「イタイイタイ病資料館」

教育長 小学校ではイ病について、中学校では公害病について授業の中で学んでいる。本年4月にイ病の副読本を制作し、小学校5年生に配布することをはじめ、資料館を十分活用してイ病の学習に取り組み。

(3) 水俣病資料館、新潟水俣病資料館においても「語り部」の果たす役割は大きいと聞いている。当資料館においてもイ病の体験を生きた語り部を育てるために、被害者団体の協力を得て「語り部」制度が発足するが、語り部の育成や活動支援にどのように取り組むのか。問う。

厚生部長 語り部となっていた

問3 再生可能エネルギー等について

(1) 小水力発電の推進はもろること、本県は全国でも有数の地熱エネルギーを有する県であり、また富山湾という素晴らしい海洋資源を有している。本県における「地熱発電」と「海洋エネルギー発電」について、現状と今後の可能性について、問う。

商工労働部長 本県の地熱発電の資源は、大部分が自然公園内にあり且つ険しい山岳地帯のため、早急な地熱発電所の開発は困難と考



富山県は自然エネルギーの宝庫

問4 本県教育に係る諸課題等について

(1) 健診などで発達障害の疑いが認められた場合に、保護者にいち早く認識していただき、保育現場、学校現場、その他周囲の方々の理解を得ながら早期に対応すれば、改善する可能性がある。発達障害について、保護者に早い段階で専門機関への相談や、支援を受け

く方に対して研修会や先進地視察を行っている。本館では、小中学校の課外授業などで来館する10名以上の団体に対して「語り部講和」を実施する。



イタイイタイ病の「語り部」による講話風景

(4) ソフト面をより充実させるため、被害者団体・語り部一般ボランティアの活動拠点となる専用スペースが必要である。当資料館でも、情報の蓄積、交流や研修をするためのスタッフルームを確保する方向だと聞いているが、現状を問う。

厚生部長 語り部やボランティアのための交流室を設置し、相互の情報交換や打ち合わせを行い関係者の連携を図りながら、円滑な運営に努める。

(5) 来館者のために、資料館の「ハードとソフト」を充実させる事は大切だと考える。そこで、資料館への来館だけではなく、

スタッフが学校や公民館に出向いての出前講座を、これまでイ病対策協議会が主催し毎年1回30年に亘って開催してきたが、資料館が中心になって行う予定はあるのか。問う。

厚生部長 今後ともシンポジウムやイ病伝承会、子ども向けの夏休み自由研究講座などを実施することとしている。また、館外の活動として、復元田や神岡を巡る親子日帰りバスツアーやパネル展示会、語り部による出前講座も検討している。

(6) 昭和54年に第1次地区が着工して以来、30年の時を経

問2 自殺対策について

(1) 近年、いじめなどによる青少年の自殺、リストラによる失業や過労・対人関係の悩みによる高齢者の自殺が、孤独による高年齢世代の自殺、大きな社会問題になっている。厚生労働省によれば、日本における自殺死亡者数は、平成10年から12年連続で3万人を超える深刻な事態となっており、先進7カ国の中でもわが国の自殺率はもっとも高く、15歳から34歳までの若い世代の死因で、自殺がトップなのはわが国だけである。そこで、本県における「自殺者の現状」について、問う。

厚生部長 平成15年の356人をピークに年々減少し、平成22年には249人となり、人口10万人あたり

市町村や障害児施設等と連携し、保護者の意識啓発に努めるとともに発達障害児支援の充実に取り組む。

(2) 小・中学校などの教育現場において、特別支援学級や専門的知識をもつ教員、外部からのスタディメイト等の支援が不足しているのではないかと感じている。今後、学校における特別支援教育にどのような取り組みが、発達障害のある子どもへの指導及び支援の充実について、対象児童生徒数の推移と併せて、問う。

教育長 対象児童生徒数については正確な把握はできていないが年々増加傾向にあり、きめ細やかな支援に努めている。特別支援学級は5年間で37%増の145学級となっている。県教育委員会では、スタディメイトの養成研修や、教員対象に専門性の高い研修会を行うっており、今後も児童生徒の教育環境のさらなる整備に努める。

(3) 発達障害のある生徒への就労支援については、本人や保護者はもとより、発達障害者支援センター、ハローワーク、障害者職業センターなどと連携して就労を支援する必要がある。学校における発達障害のある生徒への、就労支援の現状と取り組みについて、問う。

教育長 県教育委員会が配置する就職支援アドバイザーや就職支援教員、特別支援学校就労コーディネーターとハローワークの学

て、対象面積1,686ha、事業費400億円を超える一大事業である「神通川流域カドミウム汚染田復元事業」が、平成23年度に完成した。本県が、この事業により、平成23年度 農業農村工学会「上野賞」を受賞した。本事業を総括し、どのように評価しているのか。問う。

知事 過去に例を見ない大規模な土壌復元に対する「上野賞」の受賞は大変意義深く名誉であり、関係各位に心から感謝したい。本事業の記録、教訓、土壌汚染の歴史などを後世に伝えるため「蘇る清流と豊かな大地」と題した記念冊子を発行する。

(2) 自殺の原因の多くは、「うつ状態」等により引き起こされる事が多く、自殺の背景として、自殺を試みた人たちの約75パーセントに精神疾患があり、その約半数がうつ病であると言われている。そこで、本県における「うつ病患者」の現状とその支援策について、問う。

厚生部長 平成20年度の厚生労働省調査では、うつ病を含めた気分障害で医療機関を受診している患者数は、全国で104万1千人、県内では6千人と推計される。患者も個々の生徒の状況に合わせきめ細かい就労支援に努める。

(4) 軽度の知的障害を持つ生徒の職業的・社会的自立を目的に、旧一上工業高校と旧大沢野工業高校の校舎を改修して新設される、高等特別支援学校における特徴的な教育内容や、従来の特別支援学校との連携について、問う。



鹿兒島県高等特別支援学校の視察風景

教育長 雇用動向や事業所の要望等も踏まえ、挨拶や受け答え、時間や規則の遵守をはじめ、教科の学習では基本となる読み書き・計算や一般教養について、実習ではモノづくりや流通・福祉環境等の分野について学び予定である。今後とも既存の支援学校との相互連携を図りながら、本県支援教育の一層の充実を図ってゆく。

平成24年6月 富山県議会本議会一般質問

問1 「活力とやま」について

(1)季節や天候等の自然環境に左右されやすい本県農業の将来や、他業種からの参入の可能性を考えると、「植物工場」で栽培された野菜等を本県特産品として育て、アンテナショップなどでPRし、市場に出してゆくと考えられる。県内の稼働状況と本県特産品としての可能性、県の今後の取り組みについて、問う。



JR有楽町駅前にある富山県のアナテナショップ「いいき富山館」

(2)本県はこれまで林業関係者や民間企業等と協力しながら、「富山県木製品カタログ」や、「とやま木づかいフェア」などのイベントによる県産材の活用事例の展示などのPR活動に努めてきた。今後、富山県内の公共建築物や一般住宅用の木材、家具、遊具の普及などを推進することが、「地産地消」の観点から必要であると考えられるが、県産木材の県内での利用状況と利用促進のための今後の取り組みについて、問う。



県産木材を使った机とイス

農林水産部長 これまでの県産木材利用促進対策はもろろのことと、今月はじめに富山県木造公共建築物等推進会議を設置し、林

農林水産部長 県内でも7企業が取り組みを始めている。また始まったばかりの分野であるが、今後とも①技術面での情報提供、②販売先や販売方法への助言、③PRやマーケティング活動への支援をしてゆく。

厚生部長 本県においては、水泳や陸上競技などの障害者スポーツ大会を実施し、ボランティアの育成、指導員や審判員の育成を行ってきた。今後とも地域のスポーツクラブやマラソン大会において健全者と障害者が交流する機会を増やし、県民の理解と障害者スポーツの振興に取り組み。

教育長 本事業は、県内スポーツ競技力の向上に寄与し一定の成果を上げてきた。今後も、指導体制の整備充実をはかり、運動部活動のさらなる活性化と競技力の向上に努める。

(5)来月オープンする「高志の国文学館」の展示や企画を通して、本県の小・中高校生をはじめとする青少年の文学への関心を高め、「ふるさとを愛する心」を育むためにどのように取り組むのか、問う。



本年7月にオープンした「高志の国文学館」

教育長 この度開館する同施設や資料を活用し、越中万葉をより身近により深く理解する。富山ゆかりの作品の豊かな情景や深い心情に触れ感動を味わう、富山の先人や文学を詳しく調査するなどの活動を促す。その事により、児童



スペシャルオリンピックス日本・富山トーチラン風景(本年10月)

業、木材産業、建築設計関係者や学識経験者が協力して、公共建築物等の木造化を促進する。

(3)本県には、イタイタイ病資料館や高志の国文学館などの、展示体験施設ほか、立山連峰・白木海・富山平野が育む豊かな自然や食、歴史、文化があり、全てがよい学習素材である。それらを前面に出して、全国から修学旅行などを積極的に誘致すべきと考えられるが、今後の取り組みについて、問う。

観光・地域振興局長 今後は、旅行会社や学校を訪問し、多様な学習教材を持つ本県の魅力についてアピールするほか、修学旅行などを取り扱う旅行会社を招へいし積極的な誘致活動を行う。

(4)公共事業における低入札の防止について、社会資本整備のみならず、冬の除雪作業や災害時におけるライフラインの復旧確保など、建設業者は「地域社会の安心安全の確保」に大きな役割を果たしてきた。県発注の公共事業において、一定レベルの品質を維持するため、また地域に根ざした建設業界の健全な発展のためにも、公共事業における低入札の防止が急務と考えられるが、今後の取り組みについて、問う。

自らがふるさと文学への興味や関心を高め、ふるさとを愛する心を持つよう努める。

(6)本県の子どもたちに舞台芸術という文化に触れ、感じ、興味を持ってもらうよい機会と考えるが、今回の「とやま世界子ども舞台芸術祭2012」の特徴について、平成20年に本県にて開催された「第1回とやま世界子ども舞台芸術祭」との違いも踏まえて、問う。

問3 「安心とやま」について

(1)先月、自民党政調会福祉環境部会にて、弘前大学医学部付属病院の「ダヴィンチによるロボット手術」を視察してきた。ダヴィンチなどによるロボット手術は、医師や患者の負担を減らし、また研修医など



ロボット手術について説明を受ける(弘前大学医学部附属病院)

厚生部長 導入の利点や課題について検討しているが、今後の医療報酬の改定の動向や全国の実況、病院経営に及ぼす影響なども勘案しながら、その必要性について引き続き検討を進める。

の定着や本県の医療技術の向上に資するものであり、県立中央病院にも早期に導入すべきと考えられるがどうか、問う。

(2)交通事故などによる後遺症として「高次脳機能障害」をもつ方々が増えている。高次脳機能障害は、正しくリハビリすることにより、ある程度の機能回復が見込めるにもかかわらず、医療機関の認識、また社会における認知度は、いまだに低いのが現状である。今後、患者さんやそのご家族へのさら

厚生部長 更なる低入札防止のため、入札適正化委員会において検討した新入札制度を本年7月下旬から導入予定である。今後と

問2 「未来とやま」について

(1)公民館は、住民活動の拠点として、大きな役割を果たしてきた。今後、避難場所としての役割がクローズアップされるなど、安全で温かい「心を通じた地域づくり」に欠かせない大切な場所である。そこで、「地域の教育力」の充実を目的に新たに行われる「公民館親子ふるさと自然体験事業」の内容と事業への思いについて、問う。

知事 今年度は、身近な自然体験活動に加え、歴史探訪や文化継承活動などのふるさと活動を実施する。今後も公民館が中核となって、地域全体でふるさとを愛する心を持った子どもたちを育成できるように努めたい。

(2)子どもとともに学び成長してゆく親を、県がサポートし、地域活動やPTA活動を通して支援することは、大変意義深いことであると思ふ。この度「家庭の教育力」向上を目的に拡充される「とやま親学び推進事業」の内容とねらいについて、今まで実施してきた「親を学び伝える学習プログラム」



PTA活動は親としての学びの場でもある

の評価を含めて、問う。

知事 PTAと協力して実施してきた本事業に、この6年間に14,000人が参加し、親としての役割について学び、一定の成果があった。「新元氣とやま創造計画」の政策の要は「人づくり」であり、今後明日の富山県を担う子どもたちを育てるため、親に対して広くこの事業を積極的に実施してゆく。

(3)ロンドンオリンピックには、富山県出身の7名の選手が出場予定であるが、このことは私たち富山県民の誇りである。県出身のトップアスリートが、全国や世界の檜舞台で

なる支援が重要になると考えるが、「高次脳機能障害者」の現状と障害に対する理解を深めるための取り組みについて、問う。

厚生部長 本県では、県高志リハビリテーション病院内に「富山県高次脳機能障害支援センター」を開設し、ご家族のケアや患者のリハビリに取り組んできた。今後県民への普及活動の促進、教育や医療福祉関係者の研修会を実施し、県民のさらなる理解促進に努めたい。

(3)2011年度の県内の介護福祉士養成校の定員充足率が、過去最低の60%で、県内の4つの養成校はいずれも入学者数が定員割れしており、4校の定員190人に対する入学者数は114人となっている。県は、平成21年度から「障害者自立支援対策臨時特例基金」などを活用した介護福祉人材の確保のための事業を実施しているが、これまでの事業の成果をどのように評価し、今後、介護福祉人材の確保、育成にどのように取り組んでゆくのかが、問う。

知事 これまでの取り組みに加え、小学生や保護者に対する福祉現場での体験事業の実施、有資格者の現場復帰の促進、離職防止のための指導者研修会などを実施する。県民の福祉ニーズはますます高まっており、人材の確保育成にしっかりと取り組む。